答辞

冷たい風の中にも暖かい日差しが感じられるようになった今日、私たち３年生 104 名は純心女子高等学校を卒業します。3 年前の入学式では新しい出会いや高校生活への期待で胸を躍らせていたことを今でも鮮明に覚えています。純心女子高等学校で過ごした３年間は長いようで短かったという言葉が合うような充実した３年間でした。

新型コロナウイルスによる制限が緩和され、次第に行事が通常通り行えるようになりました。2 年生の修学旅行も予定されていた東京に行くことができました。修学旅行に向けての準備段階では班の人たちと話し合って自由行動の計画を立てたり、企業訪問のアポイントを取ったりと自分の行動に責任を持つことの大切さを学ぶことができました。しかし、大雨の影響により最後の学園祭が延期、短縮されるなど思い通りに進むことばかりではありませんでした。それでも私たちは置かれた状況の中で最大限に楽しむことができるという強みを活かし、最後まで全力で楽しむことができました。

私はこの３年間で主体的に行動を起こすようになりました。きっかけは１年生のときに参加したフィールドワークで「失敗することは自分を知るきっかけになる」という助言をいただいたことでした。それからは、純心の先生方が企画して下さった友達プロジェクトや学校外のボランティアに参加するようになりました。3 年生では、青少年ピースボランティアに参加しました。ボランティアでは長崎原爆について県外の人に伝える機会があり、伝えるべきことは何か、どのように伝えたらよいかを数ヶ月かけて話し合いました。自分の意見が通らず悔しい思いをしたこともありましたが、後悔することがないよう自分の考えを述べることを意識し取り組むことができました。このような活動を通して自分の視野や交流の幅が広がり、新しいことに挑戦する重要性を学ぶことができました。

昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。これは、被爆された方々を筆頭に、核兵器廃絶を訴える多くの人々の活動が認められたということであるため、受賞の知らせはとても嬉しいものでした。2022 年に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は今でも続いています。さらに、広島と長崎は今年被爆 80 年という節目を迎えます。被爆地長崎に生まれ、被爆校である純心女子高等学校の卒業生として、私たちは平和な世界が訪れることをこれからも祈り続けます。

この伝統ある純心で素敵な先生方、同級生、後輩たちに出会えたことは一生の宝物です。 後輩の皆さん。皆さんとは部活動や行事などで絆を深めることができました。皆さんは周囲に明るさを与えてくれる人たちだと思います。笑顔で挨拶をしてくれた時は、私はいつも元気をもらっていました。今年純心は節目の創立 90 周年を迎えます。この伝統ある純心で学べることに感謝し、１日１日を大切に楽しい学校生活を送ってください。

同級生の皆さんへ。私が学校に行きたいと思えたことや、卒業するのが惜しいと思えるのはいつも楽しませてくれたみんなのおかげです。みんなと本気で挑んだ球技大会や体育大会、学園祭はもちろん、休み時間や放課後に笑い合った何気ない日常もすべてが私の宝物です。

先生方へ。悩んでいるときに話を聞いて下さったり、勉強でわからないことがあると理解するまで丁寧に説明して下さったりと真摯に向き合って下さった純心中学校・純心女子高等学校の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

そして私たちの家族へ。ここまで来ることができたのは１番近くで支えてくれた家族のおかげです。気持ちが落ち込むことがあると「大丈夫だよ」と前向きな言葉を必ずかけてくれ、嬉しいことがあると自分のことのように喜んでくれました。18 年間たくさんの愛情を注いで育ててくれてありがとうございました。これからは成人し大人の仲間入りをした自覚を持って頑張っていきます。

最後になりますが今日は私たちのためにこのようなすばらしい卒業式を挙行していただきありがとうございました。そして、お忙しい中出席して下さった皆様に卒業生一同より心から御礼申し上げます。私たちはこれからも支えて下さっているすべての方への感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって歩んでいきます。その道には楽しいことだけでなく苦しいこともあるかと思います。そんなときこそ、私たちが持っている明るさと純心で学んだ強さを生かして乗り越えていきます。そして、これまで目指してきた「清く、賢く、優しい女性」の姿を体現できるようにこれからも努めていきます。皆様のご活躍と純心女子高等学校のますますのご発展を祈りつつ、答辞の言葉とさせていただきます。

令和7年　2月28日　卒業生代表